

## モノレール駐機小屋第二次組立工事

### ・単管パイプ支柱基礎固めと角材取付け

◇実施日；平成28年5月15日(日) 曇り後時々晴

◇参加者；児嶋道夫、山上皓一郎、生熊敏男、川島 功。4名

青木宏充、梶野照雄。(旧通信道修復とトレラン支援)

モノレール設置時に伐採した雑木の一部が、モノレールが横断する支谷に横たわり、増水時に流されてモノレール支柱に支障来たす恐れがあり、早急に撤去したいと思っていた。

女性陣2名が参加してくれそうな雰囲気であったが連絡が無く急遽、前日夕方に山上さんから参加の連絡があり、お陰で支谷の雑木撤去作業が出来そうだった。

新宮7時前に児嶋車(生熊氏同乗、トタン積込み)と川島車(山上さん同乗)で走行し、登山口に8時半前に到着。

前日、青木氏は、旧通信道の岩場足場をセメントで固める作業をした為、モノレールは終点に停車しているが、日曜の作業時モノレールは使用するかとの電話連絡があり、使用する旨を伝えると、行仙宿から8時半迄に下りて来るとのことであったが青木氏の車が無い。とりあえず指定のモノレール駐機位置に上るとモノレールは駐機されていた。潤滑油が空で補給、軽油を補給したいが容器が見当たらず、燃料補給せず林道に下りると青木車が到着。工具類、セメント煉り箱、20リットル水とザックで満杯となり、トタンは再度積みに降りる事にする、

トタンを降ろして青木氏は、昨日の作業継続とトレラン大会支援のため行仙宿へ。

最初は、パイプ単管(48φ)にトタン打付けの角材を番線である作業であり、児嶋、生熊、山上さんに任せて、川島は支谷の落下

しそうな岩と伐採雑木類を撤去する作業をする。



前回迄の小屋単管支柱



単管パイプに角材取付け



早目の昼食

児嶋・生熊氏は、モノレールを踏み台にして単管パイプ支柱に角材を番線で取付け。パイプ支柱のゆがみ等は山上さんが指摘指示され、合間に前側の単管支柱の基礎穴掘り作業をされている。

児嶋氏持参の発電機を作動させ、角材は電動糸鋸、単管パイプ切断は、サンダーの鉄切断刃で切って調整されている。

支谷の伐採雑木類の撤去は、一人作業のため、一旦急斜面に横たわらせ、上に登り引っぱり上げて、やや平地に集積する。



撤去した雑木類



撤去後の支谷



上手支谷の伐採雑木

伐採雑木類の撤去を終え、モノレール組立現場に戻ると屋根側の角材の取付けが終えそうな時点である。川島はモノレール駐車



地の嵩上げと崩れ防止に、下方を電柱廃材割木の2段積みにする。約2時間休憩無しのため「休憩するか!」との声に、11時頃と早い「昼飯にしようや!」と昼食に、その前に生熊氏は鋸を取りにモノレールで林道に下りる。

梶野氏が、持経宿から到着し、トレラン大会支援に行仙宿へ行くとの事。トレラン大会は、毎回25人位の参加が在るが今回は10人と少なく、梶野氏は余分な荷になるとペプシコーラー、ポカリスエット(SOCHI)各4本と桜餅を差入れして下さる。

梶野氏が終点で降り、無人で後退し下って来たモノレールを停車位置で止める。

昼食後、川島は上手支谷の伐採雑木を撤去して戻る。

前側支柱の単管パイプを計測して切断し、自在クランプで屋根単管パイプと締結させる。同時に砂半袋にセメントをスコップ3杯入れて混ぜ、バラス半袋入れセメントを煉り、支柱の基礎に流し込む。砂・バラス各2袋を使い4回煉ったが、基礎の煉りセメント量が少ない。

児嶋・川島は、林道脇の砂・バラスを捜し採りに下りる。砂・バラス各1.5袋採取して戻り、2煉りして単管支柱の基礎打ちが仕上がる14時頃に、青木・梶野氏が下山して来る。



セメント煉り

単管支柱切断位置計測

駐機小屋の支柱組立完了

小屋は傾斜約30度の傾きで組立られているので、支谷側の波トタンは、傾斜角に応じて切断すると共に足場が不安定で、次回の波トタンを打ち付ける作業と安全面が懸念される。

山上さん差し入れの餡パンで休憩。道具類等を後片付けしてモノレールで降ろす。残った川島は、駐機地に戻ったモノレールにシートカバーを被せて登山口に下りる。

ソーラーパネル据付の児嶋車は、100Vの電源機器が使用出来るので、コーヒポットで湯を沸かしてドリップコーヒが略入っていて、作業を劳いながら懇談する。

来週の釈迦ヶ岳く楊枝ノ森間の行事は、倒伏石柱道標復元には最低4名が必要で、参加者が足りずやむなく延期とした。



後片付け

支柱組立小屋前で記念撮影 コーヒー入ったよ!

### 行動タイム

新宮 6:55→8:20 登山口→9:10 駐機組立作業 11:00→11:15 昼食  
 11:50→セメント基礎打ち作業等 14:00→休憩→14:35 登山口  
 15:00→16:30 新宮。  
 (記 川島)